

透明になれない

雨和七瀬

春の夜明けの桜
秋の夕暮れの楓
あなたとともに見てみたかった

あなたの顔を思い出すとき
空に透かしてしまふようになった
夏の夜の火花
冬の朝の雪に
あなたは笑みを向けてくれた

もうあれから少し経つ
繋いでくれた手は遥か遠く
あなたに会いたくなる日もあるけど

僕はまだ透明になれない
あなたの彩った世界でひとり
いつかあなたに会うときには
僕も透かしてもらえるかな

あなたの写真が褪せていく
陽だまりに溶けていってしまう

僕はまだ透明になれない
あなたの彩った道を辿る
いつかあなたに誇れるくらい
僕の色を継ぎ足していく

もうあれからかなり経つ
僕の手は「大切」がたくさんだ
あなたに会いたくなる日もあるけど

僕はまだ透明になれない
あなたの彩った世界で生きる
いつかあなたに会うときには
僕も透かしてもらえるかな

思い出してもらえるかな